

2018年度

# 成人看護学実習

[表紙1]

提出記録用紙【最終】

- 1 実習評価表
- 2 課題レポート
- 3 日々の体験記録(ホスピス実習含む)
- 4 事前レポート
- 5 健康レベル実習事前学習用紙

学生証番号： K F \_\_\_\_\_

学生氏名： \_\_\_\_\_

実習期間： \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日 ~ \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日

実習施設名： \_\_\_\_\_

担当教員名： \_\_\_\_\_

指導者名： \_\_\_\_\_

看護学科3年 専門教育科目

2018年度

# 成人看護学実習

[表紙2]

提出記録用紙【中間】 【最終】

- |                          |                          |             |
|--------------------------|--------------------------|-------------|
| <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | 6 実習計画表     |
| <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | 7 事例報告会抄録   |
| <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | 8 アセスメント用紙1 |
| <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | 9 アセスメント用紙2 |
| <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | 10 問題リスト    |
| <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | 11 看護過程展開用紙 |
| <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | 12 プロセスレコード |
| <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | 13 患者情報収集用紙 |

学生証番号： K F \_\_\_\_\_

学生氏名： \_\_\_\_\_

実習期間： \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日 ~ \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日

実習施設名： \_\_\_\_\_

担当教員名： \_\_\_\_\_

指導者名： \_\_\_\_\_

看護学科3年 専門教育科目

授業科目名：成人看護学実習

単位／時間：6 単位／270 時間

対象／開講：16 KF／3 年生 通年

担当教員：丹澤 洋子、阿部 ケエ子、武田 清香、中川 三穂、久永 千歳

ディプロマポリシーとの関連： ○該当する ◎特に該当する

- ◎ 1. 人間の生命と尊厳および権利を尊重した行動がとれる。
- ◎ 2. 自律した一人の人間として、社会や他者へ責任のある行動がとれる。
- ◎ 3. その人らしい生活を整える視点を持つことができる。
- ◎ 4. 科学的根拠に基づいた知識及び技術を用いて、対象にあった看護を計画的に提供できる。
- ◎ 5. 問題意識を持ち、学び続けることができる。
- ◎ 6. 保健医療福祉チームの一員として看護の役割を自覚し、主体的に行動できる。
- ◎ 7. 社会の変化に伴って生じる保健医療福祉の問題に関心をむけ、倫理的課題への感受性を高め、責任ある行動がとれる。
- ◎ 8. 幅広い視点から対象を理解し、経験を統合して自分のめざす看護が述べられる。

**【目的】：**

看護の対象としての成人を理解し、その対象に応じた看護実践を通して成人看護の特徴を学習する。

**【中核目標】：**

- I 各健康レベルにある成人の特徴を理解し、その対象が直面する健康問題およびその解決に向けた看護の特徴を理解する。
- II 対象に応じた看護が展開できる。
- III 医療チームにおける看護の機能を理解し、自己の役割を認識し行動できる。
- IV 対象への看護を通して、自己の看護観を養う。

中核目標 I 各健康レベルにある成人の特徴を理解し、その対象が直面する健康問題およびその解決に向けた看護の特徴を理解する。

行 動 目 標

1. 社会の中核的な存在である成人の受診行動に至る過程を理解し、受診行動が周囲（家庭・職場・地域社会）や自己の役割遂行に及ぼす影響について説明する。
2. 突発的な発症や受傷により生命の危機的状況に直面した成人を理解し、その対象と家族への看護の特徴を述べる。
3. 手術（術前・術中・術後）を受ける成人を理解し、その対象と家族への看護の特徴を述べる。
4. 社会復帰を目指し生活の再構築を図る成人を理解し、その対象への看護の特徴を述べる。
5. 社会生活の継続、生命維持のために治療および自己管理を必要とする成人を理解し、その対象への看護の特徴を述べる。
6. 終末期にある成人を理解し、看護の役割について述べる。
7. いかなる健康レベルにある成人であっても、人間としての敬意を持ち、対象の言動に関心を向け関わることの重要性を述べる。

中核目標 II 対象に応じた看護が展開できる。

行 動 目 標

（対象理解）

1. 成人各期の発達課題および特徴を理解し、コミュニケーションを工夫する。
2. 受け持ち患者の発達段階および発達課題に関する情報をコミュニケーションや援助などの関わりを通して収集する。
3. 適切な情報源を選択し、必要な情報を効率的に収集する。
4. 受け持ち患者の病態（器質的・機能的変化、症状）を解剖生理の知識に基づき説明する。
5. 疾病・障害・入院が対象の社会的役割に及ぼす影響について説明する。
6. 検査・治療・処置の目的を理解し、それらが対象の身体面・心理面に及ぼす影響について説明する。
7. 疾病経過、生活背景などに関する情報に基づき、その人自身が疾病や障害をどのように受けとめ自己対処しているか説明する。
8. 対象との相互行為を通して気づいた情報を見逃さず適切な時機・相手に伝え、その現象の意味を探求する。
9. 家族・重要他者の心理的葛藤や不安を説明する。

（看護問題の抽出）

10. 受け持ち患者の顕在・潜在する問題とそれに関連する因子について、関連図を用いて系統的に解説し、全体像を明確に伝える。
11. 受け持ち患者の強み（自己対処能力・社会的資源など）を説明する。
12. 受け持ち患者の問題をその原因とともに看護上の問題として列挙し、その優先順位を決定する。

（看護計画立案・実施・評価）

13. 優先順位の高い看護上の問題から順に立案する。
14. 看護上の問題の原因・誘因を4側面から検討し、既習の知識を用いて記述する。
15. 看護上の問題およびその原因・誘因を解決するために活用可能な対象の問題解決能力とその限界を説

明する。

16. 実現可能な患者目標を設定する。
  - 1) 対象の状況に合致した達成可能かつ具体的な患者目標を設定する。
  - 2) 対象や家族とともに目標を共有する。
17. 個別状況に合った具体策を立案する。
  - 1) 看護技術の原理・原則、安全・安楽を十分に検討し計画に織り込む。
  - 2) 受け持ち患者の問題解決能力を十分に検討し計画に織り込む。
  - 3) 受け持ち患者の生活習慣や価値観を考慮し計画の中に織り込む。
  - 4) 患者の最新情報を踏まえ、患者の病状の変化に合った具体策であるか検討する。
18. 援助を実施する。
  - 1) 立案した計画に基づき、援助を実施する。
  - 2) 援助を開始する前に、受け持ち患者の状態の変化や周囲の状況を確認し、必要に応じ方法の変更や援助の中止等を検討する。
  - 3) 症状・反応の変化を観察しながら、安全・安楽・自立を配慮した援助を実施する。
  - 4) 回復や自立に向けて、患者が積極的に参加できるよう動機づける。
19. 実施を評価・修正する。
  - 1) 患者の状況と日々の看護を、関連する情報から多角的に評価する。
  - 2) 評価結果に基づき、患者目標・評価日を見直すとともに、計画を修正（変更・追加・具体化など）する。
20. 個別性に合った看護の実施に向け自己の課題を述べる。

中核目標 III 医療チームにおける看護の機能を理解し、自己の役割を認識し行動できる。

#### 行 動 目 標

1. 看護チームにおける継続的な看護の実現に向け、対象の状況の変化に応じ、報告・連絡・相談を適切に行う。
2. 自己の行動が他者に及ぼす影響を考え、自己を取り巻く状況に常に配慮しながら行動する。
3. 患者への倫理的配慮を十分に行いながら行動する。
4. 受け持ち患者への影響を考慮し、看護職者として自己の健康管理を十分に行い実習に臨む。
5. 対象を取り巻く医療チームがどのように連携しているか説明する。

中核目標 IV 対象への看護を通して、看護観を養う。

#### 行 動 目 標

1. 実習中の経験に基づき、成人看護に関する自己の考えをわかりやすく述べる。
2. 看護に関する疑問や自己の課題の解決に向け、文献を調べたり、討議したり、主体的に行動する。
3. 実習中の経験や学んだ内容に基づき自己の成長および今後の課題を述べる。

成人看護学実習 評価表		学生証番号： 氏 名：			実習場所							
					実習期間							
出席	欠席				遅刻			早退				
		教員評価	指導者評価	自己評価				教員評価	指導者評価	自己評価		
		よふ要 いつ努 う力	よふ要 いつ努 う力	よふ要 いつ努 う力				よふ要 いつ努 う力	よふ要 いつ努 う力	よふ要 いつ努 う力		
I その各健康 の解決対象 にがべ 向直ルに けたす ある健 護成人 の健康問 題の特 徴を理 解する	1. 受診行動への過程と役割遂行への影響	____	____	____	II つづき	19. 実施の評価・修正			____	____	____	
	2. 危機状況にある成人理解と看護の特徴	____	____	____		1) 関連する情報から多角的評価			____	____	____	
	3. 手術を受ける成人理解と看護の特徴	____	____	____		2) 患者目標・評価日の見直し、計画の修正			____	____	____	
	4. 生活の再構築を図る成人理解と看護の特徴	____	____	____		20. 看護の実施に向けた自己の課題			____	____	____	
	5. 自己管理を要す成人理解と看護の特徴	____	____	____		III 医療理 解チー ムにお ける 看護の 認識し る	1. 適切な報告・連絡・相談			____	____	____
	6. 終末期の成人理解と看護の役割	____	____	____			2. 状況に配慮した行動			____	____	____
	7. 人間としての敬意と対象への関心	____	____	____			3. 患者への倫理的配慮			____	____	____
	____	____	____	4. 自己の健康管理			____	____	____			
II 対象に 応じた 看護が 展開で きる	(対象理解)	____	____	____	IV 養通対 うし 象へ の 看護 を	1. 成人看護に関する自己の考え			____	____	____	
	1. コミュニケーションの工夫	____	____	____		2. 文献・討議、主体的な行動			____	____	____	
	2. 発達段階、発達課題に関する情報収集	____	____	____		3. 自己の成長、今後の課題			____	____	____	
	3. 適切な情報源の選択と効率的な収集	____	____	____		達成度			____%	____%	____%	
	4. 解剖生理に基づく病態の理解	____	____	____		総合評価			S・A・B・C・D・E			
	5. 対象の社会的役割への影響	____	____	____		自 己 評 価	中 間 ①					
	6. 検査・治療・処置の対象への影響	____	____	____				中 間 ②				
	7. 疾病や障害の受け止めと自己対処	____	____	____					最 終			
	8. 適切な時機・相手に報告、意味の探求	____	____	____		臨 床 指 導 者						
	9. 家族・重要他者の心理的葛藤・不安 (看護問題の抽出)	____	____	____			教 員					
	10. 対象の全体像	____	____	____								
	11. 強み (自己対処能力・社会資源等)	____	____	____								
	12. 看護上の問題列举、優先順位決定 (看護計画立案・実施・評価)	____	____	____								
13. 優先順位の高い順に立案	____	____	____									
14. 看護上の問題の原因・誘因	____	____	____									
15. 対象の問題解決能力とその限界	____	____	____									
16. 実現可能な患者目標設定	____	____	____									
1) 達成可能・具体的な患者目標設定	____	____	____									
2) 対象・家族とともに目標共有	____	____	____									
17. 個別状況に合った具体策の立案	____	____	____									
1) 原理・原則、安全・安楽の計画への織り込み	____	____	____									
2) 問題解決能力の計画への織り込み	____	____	____									
3) 生活習慣や価値観の計画への織り込み	____	____	____									
4) 最新情報・病状の変化に合った具体策	____	____	____									
18. 援助を実施する	____	____	____									
1) 計画に基づき実施	____	____	____									
2) 援助開始前の方法変更や中止	____	____	____									
3) 安全・安楽・自立に配慮した実施	____	____	____									
4) 患者の積極的参加への動機づけ	____	____	____									

## I 実習方法

1. 実習は東海大学医学部付属病院で行う。
2. 実習は原則として週間実習スケジュールに基づいて展開する。
3. 実習時間は月曜日から金曜日の8:30～16:30までとする。
4. 行動開始前に、1日の行動計画および実施計画に関しては看護過程展開用紙を臨床実習指導者に提示し、計画内容の確認・助言を受け、適宜修正する。
5. 根拠に基づく実践ができるよう、適宜、思考を整理する時間を設ける。
6. 適宜、面接や個人指導、記録、カンファレンスを行い自己の看護を振り返る。
7. 「高度救命救急センター実習」「手術室実習」「腎センター実習」「ホスピス実習」を各1日、「ICU実習」を2日実施する。詳細は、各要項を参照。
8. 6週目の病棟実習は、実習目標達成状況から明らかになった自己の課題克服に向け、各自計画を立案し、臨床指導者と相談の上行動する。

## II 実習スケジュール

「実習計画・学習の手引き」参照

## III 実習記録（1～5は表紙1に、6～13は表紙2に、綴じ紐で綴じて提出する）

### 1 実習評価表

### 2 課題レポート

テーマ：「成人看護学実習を通して学んだこと」

(1) レポートには、次の内容を含む。

- ① 成人期の対象の特徴とそれに基づく看護実践の方法
- ② 健康レベルに応じた成人看護の特徴
- ③ 自己の看護観
- ④ 自己の成長と今後の課題

(2) 各自、サブテーマを設定する。

(3) 既習の知識や理論と結びつけて自己の学び(①②)を記述する。

(4) A4のレポート用紙、2～3枚にまとめる。

### 3 日々の体験記録（ホスピス実習を含む）

記載方法は、実習要項総説を参照する。

毎日記載し、毎朝、実習開始前に提出する。提出方法は、各実習病棟の臨床指導者あるいは担当教員の指示に従う。

### 4 事前レポート

### 5 健康レベル実習事前学習用紙

### 6 実習計画表

### 7 事例報告会抄録（原本）

### 8～11 アセスメント用紙1、アセスメント用紙2、問題リスト、看護過程展開用紙

### 12 プロセスレコード

### 13 患者情報収集用紙

## IV 提出日時・方法

1. 実習最終日（実習終了時）
2. 配布した袋にグループメンバー全員の記録ファイルを入れ、担当教員が指定した所（人）に提出する。

## V 実習評価

1. 東海大学医療技術短期大学実習に関する細則の規定により実習評価は、実習日数の3分の2以上出席した者を対象とする。
2. 行動目標に基づき達成度を評価し、実習評価表に記載する。
3. 中間・最終評価面接を、原則として学生・臨床指導者・担当教員、三者間において実施する。
4. 総合評価は、学生の自己評価、臨床指導者評価を踏まえ、担当教員が行う。

## VI その他

### 1. カンファレンス

#### 目的：

実習目標達成に向け、①実習中に生じた諸問題の解決および学習の方向性を見出す、②教員・指導者の助言に基づき、自己の実習体験を理論・知識を活用し意味づける、③グループメンバー同士の実習体験を共有し、成人看護および健康レベルに応じた看護の特徴について理解を深める機会とする。

#### 方法：

- 1) 原則として、毎日行う。
- 2) 第1週目(金)頃に、関連図を用いて、受け持ち患者の全体像に関するカンファレンスを行う。  
※関連図は、カンファレンス資料として人数分各自コピーを準備し、カンファレンス終了後、シュレッダーで処理をする。  
進行は、司会・書記・タイムキーパーの役割を適宜設定し、学生が担う。

### 2. 事例報告会

#### 目的：

- 1) 成人看護学実習の経験を振り返り、その中から未だ意味づけられていない自己の看護実践に焦点をあて、理論や文献を用いて考察し、その意味を明確にする。また、その過程を通し、自己の看護観を明らかにする。さらに、本実習における自己の成長や今後の課題について確認する。
- 2) 学生間における発表、質疑応答を通して、個々の学習経験を共有する。

#### 時期：

前期は実習第5週目の月曜日、後期は実習4週目の金曜日に実施する。

#### 方法：

- 1) 抄録を作成する。(B4コピー用箋2枚にまとめる)
- 2) 抄録は、表紙(進行表)をつけて、発表順に綴じ、参加者全員に配布する。(病棟には原則として2部届ける)
- 3) 準備・運営は、学生が行う。司会・書記・タイムキーパーの役割を決め、進行表に沿って進める。
- 4) 学生一人あたりの発表時間は、質疑応答を含め、原則として20分とする。

#### 【抄録の書き方】

##### [テーマ]

- 1) 抄録(発表)内容を簡潔に表現する。
- 2) テーマが長くなる場合、抽象的な場合は、サブテーマを付ける。
- 3) テーマあるいはサブテーマには、内容のキーワードを含めると良い。

##### [はじめに]

- 1) 今回のテーマでまとめようと思った動機や発表の目的を明確に記載する。
- 2) 参加者が読んで、発表者が何についてこれから発表しようとしているのか、イメージできるように記載する。

##### [患者紹介]

発表内容を理解するために必要な患者の情報を記載する。患者像がイメージできるように記載する。

- 1) 病態や治療、発達段階を踏まえた患者の特徴を多側面から表現する。
- 2) 患者氏名はA氏、年齢は〇歳代とする等、プライバシーが守れるよう配慮する。

##### [問題リスト]

看護上の問題を全て列挙し、発表する問題に○をつける。

##### [看護の展開]

○をつけた問題に関し、実際に展開した看護過程を記載する。

- 1) 問題点抽出までのプロセス(情報・アセスメント・問題点)
- 2) 患者目標
- 3) 具体策

4) 実施

※テーマおよび発表の目的を踏まえ、実際に展開した看護過程の記載方法を工夫する。  
4) に看護過程展開用紙の形式を用いても良いし、プロセスレコードを取り入れたり、活用する理論の概念モデル(図式)を用いて表現したりして自由に工夫する。

5) 実施の評価・目標の達成状況

[考察]

- 1) 実践した看護を文献や理論を用いて解釈・意味づけする。
- 2) 客観的に、実施した看護を振り返ることにより、その看護の質を評価する。

[今後の課題]

看護の展開や考察の内容から、看護師をめざす自分自身が、これからどのように成長していきたいか、その成長に向けた自己の課題について記載する。

[引用・参考文献]

- 1) 次の要領で記載する。
  - <書籍の場合>  
著者名：書籍名，頁，発行所，発行年.
  - <雑誌の場合>  
著者名：テーマ，雑誌名，巻(号)，頁，発行年.  
※発行年は西暦で記載する。  
※雑誌によっては、巻はV o 1.、号はN o. で表示されている場合がある。
- 2) 文中の引用箇所には引用符をつける。また、直接引用(文章を句読点も含め、一字一句相違なくそのまま引用した場合)には、その個所に「     」と引用符をつけ、「     」<sup>1)</sup> のように記載する。

【表紙の書き方】

次のような様式で記載する。

成人看護学実習 事例報告会				
1. 日時：				
2. 会場：				
3. 司会：				
書記：				
タイムキーパー：				
4. 発表順				
発表時間	実習病棟	発表者	テーマ	理論家・文献
9:00～9:20	○△病棟			ノールズ・アンドラゴジー
9:20～9:40				ベッカー・健康信念モデル
				アギュレラ・危機介入への問題解決アプローチ
				成人看護学概論
○△病棟 臨床実習指導者 講評				

### 3. 「高度救命救急センター実習」「手術室実習」「ICU実習」「腎センター実習」「ホスピス実習」のまとめ

目的：

各実習経験をまとめ、その特徴および関連を分析することを通して、各健康レベルに応じた成人看護の特徴を理解する。

時期：

前期は実習第6週目の木曜日、後期は実習6週目の水曜日に実施する。

方法：

- 1) 原則として、担当教員毎に成人看護学実習配置表に示す各実習病院施設内にて実施する。
- 2) 担当したメンバーで話し合いを行い、発表資料を作成する。(指定されたA4用紙1枚にまとめる)
- 3) 資料を人数分コピーする。
- 4) 発表順は、「高度救命救急センター実習」「手術室実習」「ICU実習」「腎センター実習」「ホスピス実習」とする。
- 5) 発表は、具体例を挙げ、理論・根拠と結びつけて発表するなど、分かりやすい発表を工夫する。
- 6) 発表時間は、質疑応答を含め、原則として1発表15分とする。
- 7) グループ発表終了後、全体討議を行う。

テーマ：「各健康レベルに応じた成人看護の特徴」

- 8) 発表準備・運営は、学生が行う。司会・書記・タイムキーパーの役割を決め、協力しながら計画的に進める。

### VII 諸注意事項

実習要項総説を熟読し、きちんと守る。

週 曜	学習課題	学習方法	留意点
実習前	<p>①レポートを提出する。 テーマ「今までの実習における学び・看護に関する課題とその解決法」 <u>※返却された課題レポートは、実習中携帯し、必要時活用できるようにしておく。</u></p> <p>②実習病棟の代表的な疾患・治療・検査および看護について復習する。</p> <p>③実習の目的・目標を確認し不明な点を明確にする。</p> <p>④既習の学習内容を復習する。特に看護技術に関しては、臨床において実施可能なレベルまで事前学習しておく。</p>	<p>①左記のテーマで、レポートを2部準備し、実習初日に、グループリーダーが一括して、担当教員に提出する。</p> <p>②既習の学習内容を復習し、実習で活用できるようまとめておく。</p> <p>③実習要項を熟読する。わからない言葉は教科書、辞書等で調べ、実習目的・目標等を理解する。</p> <p>④事前技術演習をグループで計画し、担当教員に事前に申し出て日程・技術項目等を確認・調整する。(所定の申込書に記載し提出する。)</p>	<p>①表紙をつけホチキスで止める。ペン書きとする。(パソコン可) ※グループリーダーは、実習初日のオリエンテーション時に、まとめて担当教員に提出する。</p> <p>②実習中、臨床指導者や担当教員に提示を求められた場合、いつでも提示できるよう準備しておく。事前技術演習項目は、「看護技術到達度記録」「臨地実習における看護技術水準の手引き」および病棟の特徴等を参考にすると良い。</p> <p>③疑問・不明な点は、曖昧にしない。具体的に自分自身の行動がイメージできるか確認する。</p> <p>④担当教員と連絡を取り、計画的に早めに開始する。</p>
週 曜	スケジュール	学習方法	留意点
第一週目	<p>9:00～(場所：伊勢原校舎)</p> <p>①実習オリエンテーション</p> <p>13:30～(各実習病棟)</p> <p>②病棟オリエンテーション</p> <p>③受け持ち患者決定・紹介情報収集</p>	<p>①実習の目的・目標、実習方法、注意事項などのオリエンテーションを受ける。</p> <p>②グループリーダーは、病棟責任者、臨床指導者に挨拶をする。</p> <p>③学生・担当教員・臨床指導者の話し合いにより決定する。 ★「その患者を受け持った理由」を日々の体験記録に記載する。</p>	<p>①言葉の意味を具体的な行動でイメージできるまで理解できているか確認する。</p> <p>②グループ内の話し合いにより実習目的や取り組む姿勢が伝わるよう挨拶の内容を準備する。</p> <p>③自己の実習経験や課題を踏まえ、良く話し合う。 ★事前レポートの内容も踏まえて記載する。</p>
火	<p>8:30～15:30</p> <p>①受け持ち患者への援助場面の見学、および受け持ち患者と関わりながら対象を理解する。</p> <p>15:30～16:30</p> <p>②カンファレンス、翌日の計画</p>	<p>①について *看護師について、受け持ち患者の援助場面を見学する。 *カルテ、カーデックス等より必要な情報を収集する。 *受け持ち患者と関わり、患者の反応やそれに対応する自分自身について考えてみる。</p> <p>②1日の実習体験を話し合う。</p>	<p>①について *病棟および受け持ち患者の1日の生活の流れを把握する。 *受け持ち患者に行われている治療・処置・検査等を把握する。 *受け持ち患者の病態や看護に関する情報を把握する。</p> <p>②収集した情報から考えたこと、不足する情報について明確にする。</p>
水木	<p>①受け持ち患者への援助場面に参加、および受け持ち患者と関わりながら対象理解を深める。</p> <p>15:30～16:30</p> <p>②カンファレンス、翌日の計画</p>	<p>①について *看護師と共に、受け持ち患者の援助場面に参加する。 *カルテ、カーデックス等より、不足情報を意図的に収集する。アセスメント用紙1・2へ記載する。 *受け持ち患者と関わり、患者の反応やそれに対応する自分自身について考えてみる。</p> <p>②1日の実習体験を話し合う。</p>	<p>①について *どこに、どのように参加するのか、他者にもわかるよう行動計画に明示する。 *得たい情報が見つからない場合、どこを見たらよいか積極的に質問する。 *前日の学びが活かされているかという視点で考えてみる。</p> <p>②前日同様。</p>

	金	8:30~12:00 ①受け持ち患者への援助場面に参加、および受け持ち患者と関わりながら対象理解を深める。 13:00~16:00 ②カンファレンス テーマ「受け持ち患者をどのように理解したか」 16:00~16:30 ③翌日の計画	①前日同様。  ②について *アセスメント用紙2（関連図）を用いて各自発表、質疑応答する。 *看護上の問題を確認し、優先順位の高い問題はどれか明確にする。 *司会・書記・タイムキーパーを決めて進行する。	①前日同様。  ②受け持ち患者の全体像をどこまで把握しているか、客観的に評価し、対象理解を深めるために不足する部分を明確にし、翌日の計画に反映できるようにする。 （具体策立案に向け、優先順位の高い問題に関し、看護の方向性がつかめているか、など）
第二週目	月	8:30~15:30 ①受け持ち患者への援助場面に参加、および受け持ち患者と関わりながら対象理解を深める。 ②一部立案した具体策に基づき看護を実践する。	①一週目金と同様。  ②について（月～金） *看護師（臨床指導者・担当教員・スタッフ等）の指導を受けながら実施する。 *初回は必ず、どのような援助でも、指導の下で行う。一人では、絶対行わない。 <u>実習要項総説「臨地実習における看護技術水準の手引き」</u> 遵守。	①一週目金と同様。  ②について（月～金） 許可なくして、どのような援助であろうとも、絶対に、一人で実施してはいけない。 許可を得て、一人で行う場合は、実施直前と終了後に、必ず許可を得た人に報告する。
	火	①学内にて思考の整理（計画立案）		
	水	8:30~15:30 ②立案した具体策に基づき、看護を実践する。		
	金	15:30~16:30 ③カンファレンス、翌日の計画	③について *1日の実習体験を話し合う。計画に基づき実施した援助に関しては、実施・実施後のアセスメントに関しても述べる。	③について *実施後のアセスメントを次の援助につながる視点で述べているか確認する。 *良かった点、改善が必要な点について明確にする。
	金	★中間評価面接	★行動目標に基づき、達成状況を自己評価し、評価表に記載し面接時に持参する。 ★評価表の視点から、目標達成状況、および目標達成に向けた今後の取り組みについて口頭で述べる。	★該当個所に○をペンで記入する。 ★簡潔に述べることができるよう、準備して臨む。 ★達成度（%）を算出し、鉛筆で記入する。計算方法は次の通り。 「よい」：3点、「普通」：2点、「要努力」：1点とし、自己評価の合計点を算出する。（自己の合計点÷129×100）の計算式にて%を算出する。 ★3者間の評価、および今後の方向性の一致を図る。
第三週目	月 金	8:30~15:30 ①立案した具体策に基づき、看護を実践する。 15:30~16:30 ②カンファレンス、翌日の計画	①受け持ち患者が退院した場合、学生の目標達成度を踏まえ、個々の学生の状況に応じ、実習方法を決定する。  ②二週目と同様。 テーマによっては、事前に各自準備し臨む。	①②目標達成状況と課題を明確にし、今後の実習方法・内容と目標との関連を再確認する。  ②二週目と同様。 *カンファレンスの時間等は、テーマに応じて、適宜調整する。

第四週目	前期	8:30～15:30 ①立案した具体策に基づき、看護を実践する。	①受け持ち患者が退院した場合は、三週目と同様。	①三週目と同様。
	後期	15:30～16:30 ②カンファレンス、翌日の計画	②三週目と同様。	②三週目と同様。
	木	8:30～16:30 ①看護実践を振り返る（1日）	①看護を客観的に振り返る。 ②教員・臨床指導者に助言を受ける。 ③考察に文献や理論を活用する。	①看護過程展開用紙において実践の評価をする。 ②相談し助言を受けることで、考えを整理する。 ③実践した看護を意味づける。
	金	8:30～16:30 ①事例報告会の抄録作成・提出（1日）	①について *報告会に向け抄録を作成する。 *抄録作成後、発表原稿を作成し、発表の準備を整える。	①抄録の提出は、指定された日時を厳守すること。
第五週目	月	8:30～16:30 ①事例報告会（1日）	①事例報告会では、発表内容に傾聴し、活発な意見交換により、共有学習を積極的に行う。具体的な進め方は、要項を参照。	①学生間の発表・意見交換を大切に する。 ★事例報告会資料を保管する際は、氏名を記入し責任の所在を明確にする。
	火	8:30～16:30 ★中間評価面接、および記録の整理（1日）  *実習終了時、表紙 [表紙2] をつけて指定された方法で実習記録を提出	★行動目標に基づき、達成状況を自己評価し、評価表に記載する。 ★評価表はコピーし、持参する。 面接時に提出する。 ★評価表の視点から、目標達成状況、および目標達成に向けた今後の取り組みについて口頭で述べる。  ★看護技術到達度記録を事前にチェックし、自己の修得状況を確認する。	★該当個所に◎をペンで記入する。 ★簡潔に述べるができるよう、準備して臨む。 ★前回の中間評価からの変化とその要因という視点からも今回の中間評価を考えてみる。 ★達成度 (%) を算出し鉛筆で記入する。 ★3者間の評価の一致を図る。 ★今後の技術修得に向けた学習について話し合う機会とする。
	水	8:30～16:30 ・高度救命救急センター実習（2日） ・ICU実習（2日） ・手術室実習（1日） ・腎センター実習（1日）	①詳細は、各実習要項、6日間の実習ローテーション表（別紙）参照。 ②事前学習用紙を持参する。  ★ラウンド実習での学びを踏まえ、看護技術到達度記録を事前にチェックし、自己の修得状況を確認する。	詳細は、各実習要項参照。 なお、ホスピス実習（衣笠病院）は、既に本実習開始前に終了しているため、この期間に代休1日を設定している。
第六週目	木	9:00～12:30 ①6日間の実習まとめ  13:30～15:30 ②6日間の実習報告会  15:30～16:30 ③看護技術到達度記録の最終チェック	①②グループワーク、発表、討議を通し、各健康レベルに応じた成人看護の特徴を理解する。具体的な進め方は、要項を参照。  ③看護技術到達度記録を担当教員とともに最終確認する。	①日々の体験記録等を活用する。 必要に応じ、各自でコピーする等、準備する。 ②学生間の発表・意見交換を大切に する。

<p>前期…金</p> <p>後期…木</p>	<p>9:00～16:30</p> <p>★最終評価面接、および記録の整理（1日）</p> <p>※最終日の「日々の体験記録」は不要です。ただし、面接を通しての学び・気づき等は、必ず課題レポートの中に含めること。</p> <p>16:30 実習記録提出</p> <p>★各自、個人情報の記載された事例報告会資料やメモ帳を全てシュレッダー処理する。</p> <p>★グループリーダーは、記録提出、シュレッダー処理の完了（状況）を、担当教員に報告する。</p>	<p>★行動目標に基づき、達成状況を自己評価し、評価表に記載して面接時に持参する。</p> <p>★評価表の視点から、目標達成状況、および目標達成に向けた今後の取り組みについて口頭で述べる。</p> <p>★実習アンケートの記載をする。グループリーダーは所定の袋に入れ封をし担当教員に提出する。</p> <p>★提出物・提出方法の詳細は、実習要項を参照。</p>	<p>★該当個所に●をペンで記入する。</p> <p>★簡潔に述べるができるよう、準備して臨む。</p> <p>★2回目の中間評価および自己の課題の克服に向けた取り組みに関する変化とその要因という視点からも今回の最終評価を考えてみる。</p> <p>★達成度（％）を算出し、自己評価同様、<u>ペンで記入</u>する。</p> <p>★3者間の評価の一致を図る。</p>
-------------------------	--	---	---

## 成人看護学実習：手術室実習

## 【実習の位置づけ】

手術室実習は、成人看護学実習（6週間）の中に位置づけられています。成人看護学実習の目的は、看護の対象としての成人を理解し、その対象に応じた看護実践を通して成人看護の特徴を学習することです。成人看護学実習では、受け持ち患者への看護展開を中心に据え、さらに各健康レベルにある成人看護の特徴を学習し、これらの学習経験を統合することを通し、成人看護の特徴を総合的に理解することを目指します。

手術室実習は、周手術期（術直前・術中・術直後）にある成人への看護の特徴について理解を深めるための学習機会として設定されています。

## 【実習目標】

中核目標 I-3：手術（術前・術中・術後）を受ける成人を理解し、その対象と家族への看護の特徴を述べる。

中核目標 I-7：いかなる健康レベルにある成人であっても、人間としての敬意を持ち、対象の言動に関心を向け関わることの重要性を述べる。

## 【学習の視点】

- ①手術を受ける患者の身体的・心理的状态と自己対処
- ②手術・麻酔の侵襲が身体面に与える影響と、それに対する看護（術中・術直後）
- ③患者が安全に手術を受けるための環境

## 【実習方法】

場 所	東海大学医学部附属病院中央手術室
集合場所・時間	8時25分に手術衣に着替え中央手術室ナースステーション前に集合 (※自動扉を開けて中に入る)
実習内容・方法	1日、中央手術室の臨床指導者または外回りの看護師の指示・指導のもと実習する。 ① 中央手術室の特徴の説明を受ける。 ・中央手術室の役割と構造・手術患者の特徴・看護の特徴 ② 手術・麻酔の侵襲による身体的変化を観察する。 ③ 外回り看護師の看護活動を見学する。 ④ カンファレンス
欠席等の連絡	学生は、中央手術室の臨床指導者と担当教員へ連絡する。
「日々の体験記録」の提出・受取方法	①翌実習日8時30分までに、所定のボックスに「日々の体験記録」のコピーを提出する。 【記載・提出時の留意事項】 ・氏名の後に、実習配置表の病棟名を（ ）で記載する。 ・「日々の体験記録」用紙左側に、二穴の穴をあける。（ファイル綴じ込み用） ※実習場への提出と受け取りは教員が行う。 ・実習場に保管されている所定のファイルに「日々の体験記録」のコピーを綴じる。 ・実習場より「日々の体験記録」を受け取る。 ②提出した「日々の体験記録」のコピーは、後日、担当教員から受け取る。 ③手術室実習、高度救命救急センター実習、ICU実習、腎センター実習、ホスピス実習の「日々の体験記録」の原本を実習日の順に重ねホチキスで綴じ、6日間の実習報告会に活用する。
注意事項	① 手術中の患者は身体防御力が低下しています。実習当日、発熱や咳などの患者へ感染の可能性がある場合は実習できません。 ② 「日々の体験記録」の中に実習目標に対する学びを書いて下さい。 事実の羅列のみではなく、事実から考えたことも含め簡潔に書いてください。

## 成人看護学実習：ICU 実習

## 【実習の位置づけ】

ICU 実習は、成人看護学実習（6週間）の中に位置づけられています。成人看護学実習の目的は、看護の対象としての成人を理解し、その対象に応じた看護実践を通して成人看護の特徴を学習することです。成人看護学実習では、受け持ち患者への看護展開を中心に据え、さらに各健康レベルにある成人看護の特徴を学習し、これらの学習経験を統合することを通し、成人看護の特徴を総合的に理解することを目指します。

ICU 実習は、周手術期（術直後～術後）にある成人への看護の特徴について理解を深めるための学習機会として設定されています。

## 【実習目標】

中核目標 I-3：手術（術前・術中・術後）を受ける成人を理解し、その対象と家族への看護の特徴を述べる。

中核目標 I-7：いかなる健康レベルにある成人であっても、人間としての敬意を持ち、対象の言動に関心を向け関わることの重要性を述べる。

## 【学習の視点】

- ① 手術侵襲による生体反応や合併症とそれに対する看護
- ② 術後急性期にある患者の苦痛の緩和
- ③ 安全・安楽への配慮

## 【実習方法】

場 所	東海大学医学部附属病院 7 B病棟
集合時間・場所	8時20分に7 B病棟に集合（※callし自動扉を開けてもらう）
実習内容・方法	<p>2日間、臨床指導者または受け持ち看護師の指示・指導のもと実習する。</p> <p>1日目：① ICU病棟の説明を受け、病棟内を見学する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ICU病棟の役割と構造</li> <li>・入室患者の特徴、看護の特徴</li> </ul> <p>② 看護活動を見学する。</p> <p>③ カンファレンス「周手術期患者への看護の特徴」</p> <p>2日目：① 申し送りに参加し、担当の看護師が受け持つ患者の基本情報を収集する。（1～2名）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>② 看護活動に参加する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・看護師と共に患者の観察を行う。</li> <li>・各自、患者情報収集用紙を用いて自由に記録する。</li> </ul> </li> <li>③ 観察した事を看護師がどのようにアセスメントしているのか、看護師の行動から考えたり、尋ねたりして確認する。</li> <li>④ 看護師の行動を観察し、その看護活動の目的・留意点を自ら考えたり尋ねたりして確認する。</li> <li>⑤ カンファレンス</li> </ul> <p>なお、状況によっては2日目の内容を1日目に実施する場合がある。</p>
欠席等の連絡	学生は、7 B病棟の臨床指導者と担当教員へ連絡する。
「日々の体験記録」の提出・受取方法	手術室実習に準ずる。
注意事項	<p>① ICUには、身体防御力の低下した患者さんが多数います。実習当日、発熱や咳など患者への感染の可能性がある場合は実習できません。</p> <p>② 「日々の体験記録」の中に実習目標に対する学びを書いてください。事実の羅列のみではなく、事実から考えたことも含め簡潔に書いてください。</p>

## 成人看護学実習：高度救命救急センター実習

## 【実習の位置づけ】

高度救命救急センター実習は、成人看護学実習（6週間）の中に位置づけられています。成人看護学実習の目的は、看護の対象としての成人を理解し、その対象に応じた看護実践を通して成人看護の特徴を学習することです。成人看護学実習では、受け持ち患者への看護展開を中心に据え、さらに各健康レベルにある成人看護の特徴を学習し、これらの学習経験を統合することを通し、成人看護の特徴を総合的に理解することを目指します。

高度救命救急センター実習は、急性期にある成人への看護の特徴について理解を深めるための学習機会として設定されています。

## 【実習目標】

中核目標 I-2：突発的な発症や受傷により生命の危機的状況に直面した成人を理解し、その対象と家族への看護の特徴を述べる。

中核目標 I-7：いかなる健康レベルにある成人であっても、人間としての敬意を持ち、対象の言動に関心を向け関わることの重要性を述べる。

## 【学習の視点】

- ① 生命の危機的状況にある患者の特徴と看護
- ② 突然危機的状況に陥った患者や家族の心理と看護
- ③ プレホスピタル活動

## 【実習方法】

場 所	東海大学医学部附属病院高度救命救急センター
集合場所・時間	8時20分に高度救命救急センターに集合（※callし自動扉を開けてもらう）
実習内容・方法	<p>2日、臨床指導者または受け持ち看護師の指示・指導のもと実習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ EICUとHCUで各1日ずつ実習を行う。その間、臨床指導者の誘導により救急外来にて見学実習を行う。</li> <li>① 高度救命救急センターの特徴の説明を受ける。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 救急医療体制と役割</li> <li>・ プレホスピタル活動とインホスピタル活動</li> <li>・ 看護の特徴</li> </ul> </li> <li>② 施設内とドクターヘリ内を見学する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>※ドクターヘリは、状況により見学できないこともある。</li> </ul> </li> <li>③ 看護活動を見学する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 患者の病態（画像の確認含む）と経過、看護について説明を受ける。</li> </ul> </li> <li>④ カンファレンス</li> </ul> <p>※臨床側のスケジュールに沿って実施する。</p>
欠席等の連絡	学生は、高度救命救急センターの臨床指導者と担当教員へ連絡する。
「日々の体験記録」の提出・受取方法	手術室実習に準ずる。
注意事項	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 高度救命救急センターには、身体防御力の低下した患者さんが多数います。実習当日、発熱や咳など患者への感染の可能性がある場合は実習できません。</li> <li>② 「日々の体験記録」の中に実習目標に対する学びを書いて下さい。事実の羅列のみではなく、事実から考えたことも含め簡潔に書いてください。</li> </ol>

## 成人看護学実習：腎センター実習

## 【実習の位置づけ】

腎センター実習は、成人看護学実習（6週間）の中に位置づけられています。成人看護学実習の目的は、看護の対象としての成人を理解し、その対象に応じた看護実践を通して成人看護の特徴を学習することです。成人看護学実習では、受け持ち患者への看護展開を中心に据え、さらに各健康レベルにある成人看護の特徴を学習し、これらの学習経験を統合することを通し、成人看護の特徴を総合的に理解することを目指します。

腎センター実習は、慢性期にある成人への看護の特徴について理解を深めるための学習機会として設定されています。

## 【実習目標】

- 中核目標 I-5：社会生活の継続、生命維持のために治療および自己管理を必要とする成人を理解し、その対象への看護の特徴を述べる。
- 中核目標 I-7：いかなる健康レベルにある成人であっても、人間としての敬意を持ち、対象の言動に関心を向け関わることの重要性を述べる。

## 【学習の視点】

- ①血液透析時に予測される合併症と、それに対する看護の役割・意義
- ②血液透析を受ける患者の苦痛と苦痛緩和のための対処方法
- ③日常生活の工夫や苦勞、今までの経過（身体面・心理面・社会面）
- ④血液透析と腹膜透析の違い

## 【実習方法】

場 所	東海大学医学部附属病院腎センター
集合時間・場所	8時20分に腎センターに集合（※自動扉を開けて中に入る）
実習内容・方法	<p>1日、臨床指導者の指導のもと実習する。</p> <p>① 血液透析室の特徴の説明を受ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・透析室内の治療環境（機械、患者ベッド配置等）</li> <li>・透析予定患者数および患者の特徴</li> <li>・地域および病院における透析室の役割・機能</li> </ul> <p>② 透析室看護の特性について説明を受け、その看護活動の実際を見学する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・患者入室時の状況</li> <li>・透析時に予測される合併症と看護</li> <li>・苦痛緩和に対する対処方法と看護の役割 (同一体位、除水による口渇、関節痛血管痛・穿刺部痛、精神的苦痛など)</li> <li>・患者の安全安楽を守るための多職種間の連携</li> <li>・透析終了（返血）から患者退室時までの状況</li> </ul> <p>③ 患者と関わり話を聞くことを通して、患者の日常生活、今までの経過を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・患者の日常生活の工夫や苦勞の実際</li> <li>・患者から今までの経過（病状の変化に伴う身体面・心理面・社会面）</li> </ul> <p>④カンファレンス</p>
欠席等の連絡	学生は、腎センターの臨床指導者と担当教員へ連絡する。
「日々の体験記録」の提出・受取方法	手術室実習に準ずる。
注意事項	<p>①「日々の体験記録」の中に実習目標に対する学びを書いて下さい。</p> <p>事実の羅列のみではなく、事実から考えたことも含め簡潔に書いてください。</p> <p>② 腎センターでの実習は、15時30分までです。但し、状況によって、これ以降にカンファレンスを行うことがあります。</p> <p>③ 実習時間は、16時30分までです。腎センターでの実習終了後は、記録の整理、翌日の実習準備等、行動計画に基づき実習して下さい。</p>

## 成人看護学実習：ホスピス実習

## 【実習の位置づけ】

衣笠ホスピス実習は、成人看護学実習（6週間）の中に位置づけられています。成人看護学実習の目的は、看護の対象としての成人を理解し、その対象に応じた看護実践を通して成人看護の特徴を学習することです。成人看護学実習では、受け持ち患者への看護展開を中心に据え、さらに各健康レベルにある成人看護の特徴を学習し、これらの学習経験を統合することを通し、成人看護の特徴を総合的に理解することを目指します。

衣笠ホスピス実習は、終末期にある成人への看護の特徴について理解を深めるための学習機会として設定されています。

## 【実習目標】

中核目標 I-6：終末期にある成人を理解し、看護の役割について述べる。

中核目標 I-7：いかなる健康レベルにある成人であっても、人間としての敬意を持ち、対象の言動に関心を向け関わることの重要性を述べる。

## 【学習の視点】

- ① トータルペインと看護
- ② 医療チームの機能と役割
- ③ 死生観の重要性と自己の死生観

## 【実習方法】

場 所	社会福祉法人 日本医療伝道会 総合病院 衣笠病院 ホスピス (神奈川県横須賀市小矢部2-23-1 JR横須賀線「衣笠駅」より徒歩5分)
集合場所・日時	前期実習の学生：4月27日（金）、後期実習の学生：10月12日（金） 集合時間：9時50分（衣笠病院本館玄関前）
実習内容	1日コースに参加し、見学実習を行う。 ① 看護師、薬剤師、ソーシャルワーカー、チャプレン、ボランティア等からの話 （※状況により、変更の可能性あり） ② ホスピス見学 他 ※詳細は、実習する週の月曜日頃に掲示する。掲示に注意してください。
欠席等の連絡	実習日前の連絡：ホスピス引率担当教員へ連絡する。 実習当日の連絡：【連絡先】医療短大事務室 電話0463-58-1211 【連絡時間】9時00分～9時50分 <b>注意！！衣笠病院には直接電話しない。</b>
「日々の体験記録」の提出・受取方法	① 成人看護学実習初日オリエンテーション時に、担当教員に提出する。 ② 後日、担当教員から受け取り、他の「日々の体験記録」と同様ファイルに綴じる。
注意事項	① ホスピスに入院する患者さんは、身体防御力が低下しています。実習当日、発熱や咳など患者さんへの感染の可能性がある場合は、実習できません。また、実習場が遠方になります。体調がすぐれない場合は、無理をしないで下さい。 ② 【日々の体験記録】の中に、実習目標に対する学びを書いて下さい。 ③ ホスピス実習は、10時～16時までです。現地集合、現地解散となります。 ④ その他の諸注意 ・各自「実習計画表」に日々の目標と実習内容を記載し実習に臨んで下さい。 ・ナースシューズを持参して下さい。忘れた場合は、病院見学ができません。 ・服装は、ブラウス・スーツ等とし、ジーンズ・タンクトップ等は禁止です。 ・靴は、靴音のしないもの。ピンヒールは禁止です。 ・髪は清潔に、香水や整髪料など匂いのするものは控えて下さい。 ・病院見学時は、私語を慎み、靴音等他者の迷惑にならないよう気をつけ集団行動して下さい。 ・昼食は、持参するか（研修室で食事可）、病院の食堂を利用して下さい。 ・ゴミは、全て持ち帰って下さい。 ・使用した机などもきちんと整備し、環境整備に心がけて下さい。

No \_\_\_\_\_

学生証番号 \_\_\_\_\_ 氏名 \_\_\_\_\_

日付	自由欄	患者情報

「高度救命救急センター実習」「手術室実習」「ICU実習」「腎センター実習」「ホスピス実習」の事前学習

実習病棟名：伊勢原

病棟

学生証番号

氏名

	高度救命救急センター実習	手術室実習	ICU実習	腎センター実習	ホスピス実習
① 健康レベル	急性期	急性期 (周手術期:術直前・術中・術直後)	急性期 (周手術期:術直後・術後)	慢性期	終末期
② 患者の特徴					
③ 看護の特徴					
①②③に 活用可能な理論					

※ 既習の知識(理論や文献とその内容)を活用しまとめる。  
事前学習用紙は、実習初日のオリエンテーション時に提出する。